

刊行にあたって

インプラントオーバーデンチャー（IOD）に使用されるアタッチメントは、各メーカーからさまざまなものが発売されており、その効果・特徴も多岐にわたる。国内で使用できる代表的なアタッチメントとしては、バーアタッチメント、磁性アタッチメント、ボールアタッチメントやロケーターアタッチメントを代表とするスタッド型のアタッチメント、そしてテレスコープタイプのアタッチメントが挙げられる。これらに準ずるさまざまなアタッチメントを加えると、さらにバリエーションは広くなり、結果として多くの先生方より「どのアタッチメントがよいのですか」などの質問を受ける機会が多い。

IODの診断や設計原則の詳細は他書に譲るが、アタッチメントは一定以上の安定を有した義歯の維持、あるいはその安定性を向上させる装置であって、決して不安定な義歯の安定を一手に引き受ける装置ではないことを理解しなければならない。とはいうものの、各種アタッチメントは、それぞれ特徴を有しており、その効果を最大限に活かすための適応があることも事実である。

本書では、IODに用いられる代表的なアタッチメントの特徴について、文献を加えて解説するとともに、適応する顎骨（上顎／下顎）、インプラントの配置や本数に基づいたアタッチメントの選択基準と実際の症例を提示した。読者の先生方のIOD臨床に寄与できれば幸いである。

2018年7月
和田誠大